

# 水俣病の実態調査

熊本短大  
社会学科

## 工場公害にメス

熊本短大社会学科の内田守教授、同岡本講師と学生ら十人は水

俣病の実態調査のため、さる八日から水俣市を訪れていたが十日調査を終わった。

一行はまず市立病院水俣病棟に入院中の同病患者に慰問品を贈ったり、ユビ人形劇を披露したりして見舞った。このあと八、九両日にかけて同病の多発地区、茂道、湯堂、月の浦、出月などの現地を回り患者や家族から聞き取り調査を行ない、最終日の十日は再び市立病院を訪れ、患者たちの話を聞いた。

内田教授は目的と調査結果について「この調査は昨年の日本社会福祉学会で工場誘致は地域社会にプラスするだけでなく公害など問

題となる点が多いとの発表があったため、まず手近なところにある水俣病を取りあげたわけだ。公害に対する国家的な施策を学会を通じて訴えるいっぽう、水俣病の子どもを「はげます会」の結成もよびかけた」と語っていた。

水俣病をはげます会は同短大社会学科内に置き、支部は水俣市民病院ケースワーカー光永輝雄さんがあたる。